

第2学年 音楽科指導案

本時の主張

前時では、鑑賞曲「だがつきパーティー」から聴き取った7種類の楽器に加え、平太鼓・ボンゴ・コンガの楽器の音色に親しんでいる。また、パーティーに登場する動物に合うのはどんな楽器かを話し合い、自分が何の動物でどの楽器を使いたいのかを決めてある状態である。複数の奏法については、タンブリンを除いた楽器で学習している。しかし、子どもは単に楽器の鳴らし方がいくつかあるという認識にすぎず、自分の動物に合う音の鳴らし方を工夫できることには気付いていない。

このような子どもに以下2つの手立てを行うことで、本時のねらいにせまりたいと考える。

- ① タンブリンで「かば」と「ねずみ」の音を考えることで、同じ楽器でも動物に合う鳴らし方が違うことに気付かせる。
- ② 友達の楽器の鳴らし方を聴き合うことで、動物のイメージと〔共通事項〕を関連付ける。
→「音色」「リズム」「強弱」

本時の冒頭、共通の楽器タンブリンで「かばやねずみの音を出すにはどう鳴らせばよいか」と問う。子どもは自分もつ「かば」と「ねずみ」のイメージを想起し、「かばは大きい。だからタンブリンの白いところをたたいてターンタン。」等、それまで単に楽器の鳴らし方として認識していたことと動物のイメージをここで初めて関連させて考える。その後自分の動物に合う楽器の鳴らし方を考えた子どもに、友達の楽器の鳴らし方を聴き合う場を設ける。例えばねずみで鈴を選んだ子どもの鳴らし方を聴き合い「鈴を細かくふってシャラララ・・・と小さな音で鳴らしていた」等の言葉を出させる。「ねずみさんが走っていたから」など、そのように鳴らした理由も引き出す。これらを「細かく(=リズム)」「シャララ(=音色)」「小さな音(=強弱)」と〔共通事項〕の要素ごとに分けて板書する。子どもは友達の楽器の鳴らし方を聴き合うことで、動物のイメージと〔共通事項〕を関連付ける。ここでは「音色」「リズム」「強弱」の〔共通事項〕と関連させることをねらう。「音色」「リズム」「強弱」の〔共通事項〕が、それぞれの楽器の音の鳴らし方につながる。

以上の手立てを行うことにより、子どもは自分の動物に合う音の鳴らし方を工夫することができる。

- 1 題材名 いろいろな音を楽しもう
「だがつきパーティー」長谷部匡俊 作曲 (鑑賞曲)
「かぼちゃ」 桑原ほなみ 作詞 黒澤吉徳 作曲 (器楽曲)

2 題材の目標

- 身近な打楽器の音色の特徴を感じ取りながら音楽を聴いたり、音色の違いをとらえて工夫しながら表現したりすることができる。
- 打楽器の音色の違いや音の組合せによって生まれる面白さを感じ取り、いろいろな音の重ね方を工夫して演奏することができる。

3 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
① 「だがつきパーティー」(鑑賞曲)で、いろいろな打楽器の音色に気を付けて音楽を聴く学習に進んで取り組もうとしている。(鑑賞) ② 打楽器の音色に興味・関心をもち、音色の特徴を思い出しながら楽器を選ぶ学習に進んで取り組もうとしている。(音楽づくり)	① 打楽器の音色を聴き取り、自分の動物のイメージに合う音の鳴らし方を工夫している。(音楽づくり)	① 「かぼちゃ」(器楽曲)で、音色の違いを生かして音を組み合わせ、拍の流れによって演奏している。(器楽)	① 「だがつきパーティー」で、いろいろな打楽器の音色の特徴や働きが生み出す面白さを感じ取りながら聴いている。(鑑賞)

4 題材と指導の構想(全4時間)

(1) 題材と児童

① 児童について

身体を動かす活動を好む子どもが多い。そのためこれまでは、音楽に合わせて動いたり遊び歌をしたり、身体表現を取り入れた授業を行ってきた。2年時初めと比べ、音楽が好きで楽しいと答える子どもが増えた。反面、じっくりと音楽に耳を傾けたり楽器の音色を味わったりする活動にはまだ十分に組み合せていない。そこで、本題材の鑑賞・音楽づくり・歌唱の学習を通して、楽器の音色に耳を傾けその特徴や組み合わせの面白さを味わってほしいと考える。

鑑賞については、何曲かの鑑賞曲を聴く活動を1年時で経験している。楽曲を聴いて様子を思い浮かべたり音を見つけたりするのが主な活動である。音色に関する鑑賞では、「シンコペーテッド・クロック」でウッドブロックとトライアングルの音色に触れている。2年時では未経験であり本題材が初めてである。

音楽づくりについては、1年時で「拍を感じてリズムを打とう」の学習でカスタネットとタンブリンの奏法を、「いろいろな音を楽しもう」の学習でウッドブロック・トライアングル・鈴の奏法を学習している。カスタネット・タンブリン・ウッドブロックについては基本的な奏法のみ、トライアングルと鈴については複数の奏法があることを学んでいる。2年時では、「かえるの音あそび」で自分の声の高さを工夫する活動を、「ドレミであそぼ」の学習で鍵盤ハーモニカを使って旋律をつくる活動を経験した。打楽器の音色についての活動は本題材が初めてである。

歌唱については、1年時にカスタネットとタンブリンのリズム伴奏に合わせて歌う活動を経験している。2年時では手拍子に合わせて歌う学習をしたが、複数の打楽器の組合せを考えそれに合わせて歌う学習は本題材が初めてとなる。

以上どの領域でも、2年生になって初めて打楽器の音色に着目することになる。子どもが打楽器の音色に耳を傾けその特徴や組合せの面白さを味わえるよう、題材構成を工夫し学習を進めたい。

② 題材について

本題材は、「だがつきパーティー」の鑑賞の学習での学びを、自分の動物に合う音の鳴らし方を工夫する学習(音楽づくり)と「かぼちゃ」の楽曲に合わせて打楽器の音を重ねて演奏する学習(器楽)へとつなげていく構成とした。本題材で扱う「だがつきパーティー」の鑑賞曲と音の鳴らし方を工夫する学習(音楽づくり)、「かぼちゃ」(器楽曲)は、どれも打楽器を使って学習をするという共通点がある。「だがつきパーティー」の鑑賞曲で感じ取った打楽器の音色の違いを、音楽づくりの学習で自分の動物のイメージに合う音の鳴らし方を工夫する活動へとつなげる。また音楽づくりの工夫の中で得た楽器の鳴らし方(「音色」「リズム」「強弱」)を、「かぼちゃ」(器楽曲)に生かしていく。「だがつきパーティー」の鑑賞曲で感じ取った音の組合せの面白さも、実際に打楽器の組合せを考え演奏する「かぼちゃ」(器楽曲)の学習へとつながっていく。このように、複数の領域を関連付けて題材を構成することで、子どもたちの学びが点から線へとつながり深まっていくようにした。

○「だがつきパーティー」（鑑賞）

1時間目で扱う鑑賞曲「だがつきパーティー」は、様々な打楽器の音色に親しむために作曲されたもので、ウッドブロック、トライアングル、クラベス、カスタネット、小太鼓、すず、タンブリンの7種類の打楽器によるアンサンブルである。教科書には7種類の動物が描かれており、かぶっている帽子によって、木質、金属質、膜質の打楽器グループに分かれている。この楽曲は、右図の流れで打楽器が登場する。打楽器が1種類で登場する1・5・9では、一つ一つの楽器の音色を確かめることができる。音当てクイズで、楽器名を確認し音の言語化をすることで音色の特徴を十分に感じ取らせたい。ここで感じ取った音色の特徴が、音楽づくりの学習で自分の動物のイメージに合う音の鳴らし方を工夫する活動へとつながっていく。

複数の打楽器が重なって登場する2～4・6～8・10～14には、音の組合せによって生まれる面白さがある。1種類→2種類→3種類と打楽器が増えて重なっていく部分を聴き比べることで、子どもは音が重なることで生み出される面白さに気付くことができる。それが、実際に打楽器の組合せを考え演奏する「かぼちゃ」（器楽曲）の学習へとつながっていく。

- 1, ウッドブロック
- 2, ウッドブロック+トライアングル
- 3, トライアングル+クラベス
- 4, ウッドブロック+トライアングル+クラベス
- 5, カスタネット
- 6, カスタネット+小太鼓
- 7, 小太鼓+すず
- 8, カスタネット+小太鼓+すず
- 9, タンブリン
- 10, 七つの楽器全てによる合奏
- 11, ウッドブロック+トライアングル
- 12, クラベス+カスタネット
- 13, 小太鼓+すず
- 14, 七つの楽器全てによる合奏

○「音の鳴らし方を工夫しよう」（音楽づくり）

身近な打楽器を使って、いろいろな音の鳴らし方を工夫するための教材である。1年生で学習した「拍を感じてリズムを打とう」「いろいろな音を楽しもう」の学習とつながる。前年度に奏法を学んだカスタネット・タンブリン・ウッドブロック・トライアングル・鈴の5種類に、クラベス・小太鼓・平太鼓・ボンゴ・コンガの5種類を新たに加え10種類の打楽器を扱う。この教材では打楽器の音色を聴き取り、その特徴をとらえて、自分のイメージに合う音の鳴らし方を工夫する学習を行う。単に楽器の複数の奏法を学ぶだけでなく、自分の動物のイメージと関連付け「音色」「リズム」「強弱」の〔共通事項〕とつなげたい。

○「かぼちゃ」（器楽）

身近な打楽器を用いて音色の学習をするために作られた楽曲である。ここでは歌に合わせて打楽器を演奏する学習を行う。1～3小節目までは歌唱のみ、4～12小節目は歌唱に合わせて打楽器を演奏するという曲の構成である。歌詞が「一人じゃはこべない～・・4人、5人、6人、7人・・」となり、それに合わせて楽器の音色を重ねて演奏したくなるような仕掛けとなっている。この教材では、音の組合せによって生まれる面白さを感じ取りながら、音の鳴らし方や組み合わせ方を工夫して拍の流れにのって演奏する学習を行う。前時の音楽づくりで学んだ「音色」「リズム」「強弱」の〔共通事項〕を生かして表現させたい。

(2) 指導の構想

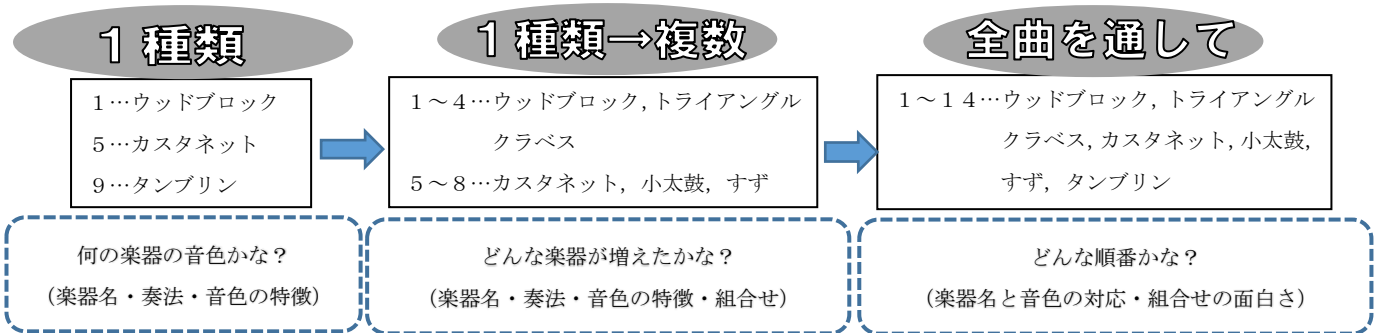
本題材は、平成29年3月に告示された小学校学習指導要領の以下の点を受けて設定した。

第1学年及び第2学年

- A 表現 (2) ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつこと。
- ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(イ)の技能を身に付けること。
- (イ) 音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能。
- (3) ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)をできるようにすること。
- (ア) 音遊びを通して、音楽づくりの発想を得ること。
- イ 次の(ア)について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くこと。
- (ア) 声や身の回りの様々な音の特徴
- ウ 発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な次の(ア)の技能を身に付けること。
- (ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能。
- B 鑑賞 (1) ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴くこと。
- 〔共通事項〕 ア 音色、リズム、強弱

① 鑑賞の学習では

「だがつきパーティー」の鑑賞の学習では、「打楽器が1種類で登場する1・5・9」「1種類→複数の打楽器が重なって登場する2～4, 5～8」「全曲を通して1～14」の3段階に分けて聴かせる。



まず「打楽器が1種類で登場する1・5・9」を聴かせる。ここでは「何の楽器の音色かな?」と音当てクイズの形式で考えさせた後、楽器を見せて実際に音色を確かめる。どれも1年時で演奏したことがある楽器なので、経験を想起させながら奏法も確かめる。「ウッドブロックはコンコンした固い音」「タンブリンはシャラシャラした明るい音」など言語化する活動も行い、音色の特徴を共有する。次に「1種類→複数の打楽器が重なって登場する2～4, 5～8」を聴かせる。ここでは「どんな楽器が増えたかな?」と新たに組み合わせられた楽器の音色に着目させる。組み合わせられた楽器を見せて実際に音色を確かめたり奏法を確認したりする。2年時で初めて触れるクラベスと小太鼓の奏法は丁寧に確認し、実際に音を出す体験もさせたい。最後に「全曲を通して1～14」を聴かせる。ここでは「どんな順番かな?」と問い、教科書の楽器を持った動物を指差しながら聴かせる。楽器名と楽器の音色を対応させるためである。また楽器の組み合わせによる働きが生み出す面白さも感じ取らせたい。鑑賞の学習で楽器の音色にたっぷりふれさせその特徴を感じ取らせる。それがその後の音楽づくりと器楽の学習につながる。なお、「1種類→複数の打楽器が重なって登場する2～4, 5～8」「全曲を通して1～14」は器楽に入る前に再度聴かせるようにする。1種類→2種類→3種類と打楽器が増えて重なっていく部分を聴き比べることにより、組み合わせによる働きが生み出す面白さに再度着目し器楽の学習で生かせると考えるからである。

② 音楽づくりの学習では

音楽づくりの1時間目では、「だがつきパーティー」の鑑賞で登場した楽器名と奏法、音色の特徴を確認する。

その後教科書の動物がかぶっている帽子に着目させ、7種類の楽器が「木質」「金属質」「膜質」のグループに分かれることも確認する。そこへ平太鼓・ボンゴ・コンガの3種類の楽器を登場させ「どの仲間か」と問う。膜質の仲間であることと奏法を確認した後で、「10種類の打楽器でパーティーをしよう」と子どもに投げかける。ここでは、自分になりたい動物と演奏したい楽器を1つ決めるようにする。その際各楽器の音色の特徴を思い出しながら決めるようにさせる。

2時間目(本時)では、自分の動物に合う音の出し方を工夫する学習を行う。まず共通の楽器タンブリンで「かば」と「ねずみ」の音を考える活動を行う。ここで楽器の鳴らし方と動物のイメージを関連付けさせたい。その後自分の動物に合う楽器の鳴らし方を考えた子どもに、友達の楽器の鳴らし方を聴き合う場を設ける。例えばねずみで鈴を選んだ子どもの鳴らし方を聴き合い「鈴を細かくふってシャラララ・・と小さな音で鳴らしていた」等の言葉を出させる。「ねずみさんが走っていたから」など、そのように鳴らした理由も引き出す。これらを「細かく(=リズム)」「シャララ(=音色)」「小さな音(=強弱)」と〔共通事項〕の要素ごとに分けて板書する。子どもは友達の楽器の鳴らし方を聴き合うことで、動物のイメージと〔共通事項〕を関連付ける。ここでは「音色」「リズム」「強弱」の〔共通事項〕と関連させることをねらう。「音色」「リズム」「強弱」の〔共通事項〕が、それぞれの楽器の音の鳴らし方につながる。

③ 器楽の学習では

「かぼちゃ」の器楽の学習では、音の組合せによって生まれる面白さを感じ取りながら、音の出し方や組合せ方を工夫して拍の流れの流れて演奏する活動を行う。「かぼちゃ」の楽曲を歌唱し学習課題をもった後に鑑賞曲「だがつきパーティー」の「1種類→複数の打楽器が重なって登場する2～4, 5～8」「全曲を通して1～14」を再度聴かせる。1種類→2種類→3種類と打楽器が増えて重なっていく部分を聴き比べることにより、音の組合せによる働きが生み出す面白さに着目させる。前時の音楽づくりで学んだ「音色」「リズム」「強弱」の〔共通事項〕も生かしながら、グループで音の出し方や組み合わせ方を工夫して演奏できるようにしたい。

5 題材の指導計画（全4時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評 価				
		関	創	技	鑑	評価規準
1	<p>○ 「だがつきパーティー」を鑑賞することについて、楽曲を3段階で分けて聴いたり楽器の音色を言語化したりする活動を通して、いろいろな打楽器の音色の特徴や働きが生み出す面白さを感じ取りながら聴くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「打楽器が1種類で登場する1・5・9」と「1種類→複数の打楽器が重なって登場する2～4，5～8」を聴き、楽器名・奏法・音色の特徴・打楽器の組合せを捉える。 ・ 「全曲を通して1～14」を聴き、楽器名と楽器の音色を対応させ、音の組合せによる働きが生み出す面白さも感じ取らせる。 	○			○	<p>いろいろな打楽器の音色に気を付けて音楽を聴く学習に進んで取り組もうとしている。（関①）</p> <p>いろいろな打楽器の音色の特徴や働きが生み出す面白さを感じ取りながら聴いている。（鑑①）</p>
2	<p>○ 自分がなりたい動物と使いたい楽器を選ぶ活動について、「だがつきパーティー」で登場した楽器名・奏法・音色の特徴を確認したり、仲間分けをしたりすることを通して、打楽器の音色に興味・関心をもち、楽器を選ぶ学習に進んで取り組むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器名と奏法、音色の特徴を確認し、楽器が「木質」「金属質」「膜質」の3種類に分けられることを理解する。 ・ 音色の特徴を思い出しながら自分がなりたい動物と演奏したい楽器を1つ決める。 	○				<p>打楽器の音色に興味・関心をもち、音色の特徴を思い出しながら楽器を選ぶ学習に進んで取り組もうとしている。（関②）</p>
3 本 時	<p>○ 自分の動物に合う音を探す活動について、1つの楽器での様々な鳴らし方を考えたり、同じ動物の楽器の鳴らし方の共通点を考えたりする活動を通して、自分の動物に合う音の鳴らし方を工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タンブリンで「かば」と「ねずみ」の音を考えることで、同じ楽器でも動物に合う鳴らし方が違うことに気付く。 ・ 友達の楽器の鳴らし方を聴き合うことで、動物のイメージと〔共通事項〕「音色」「リズム」「強弱」を関連付け、自分の動物に合う音の鳴らし方を工夫する。 		○			<p>打楽器の音色を聴き取り、自分の動物のイメージに合う音の鳴らし方を工夫している。（創①）</p>
4	<p>○ 「かぼちゃ」を演奏することについて、「だがつきパーティー」の打楽器の組み合わせによる働きが生み出す面白さを想起したり重ね方を工夫したりする活動を通して、音色の違いを生かして音を組み合わせ、拍の流れにのって演奏することができる。</p>			○		<p>音色の違いを生かして音を組み合わせ、拍の流れにのって演奏している。（技①）</p>

6 本時の計画（3時間目/4時間）

（1）本時のねらい

自分の動物に合う音を探す活動について、1つの楽器での様々な鳴らし方を考えたり、友達の楽器の鳴らし方を聴き合ったりする活動を通して、自分の動物のイメージに合う音の鳴らし方を工夫することができる。

（2）本時の構想（具体的手立て）

前時では、以下の楽器の音色に親しんでいる。

★カスタネット	★ウッドブロック	★鈴（1年時）	★トライアングル（1年時）		
○タンブリン	★クラベス	★小太鼓	★平太鼓	★ボンゴ	★コンガ
（★・・・複数の奏法を前時で学習　○・・・複数の奏法は本時で学習）					

以上の楽器の音色が違うことやそれぞれ奏法は1つではないことを学んでいる。また、それぞれが自分の動物を決めてそれに合う楽器も1種類ずつ選んでいる状態である。ここで決めた動物は前々時に鑑賞した「だがつきパーティー」で登場した以下の動物たちである。

○たぬき	○りす	○きつね	○ねずみ	○かば	○さる	○うさぎ
------	-----	------	------	-----	-----	------

以上の前時を踏まえて、本時では自分の動物に合う音の出し方を工夫する活動を行う。楽器の音色が違うことやそれぞれ奏法は1つではないことを学んではいるが、自分の動物に合う楽器の鳴らし方について考えるのは本時が初めてとなる。以下の手立てを行うことにより、全員が自分の動物に合う音の出し方を工夫することができるようにしたい。

① タンブリンで「かば」と「ねずみ」の音を考えることで、同じ楽器でも動物に合う鳴らし方が違うことに気付かせる。

本時の冒頭、タンブリンで「かばの音を出すにはどう鳴らせばよいか」「ねずみの音を出すにはどう鳴らせばよいか」と子どもたちに問いかける。共通の楽器タンブリンで体の大きさが違う「かば」と「ねずみ」の音を考えさせるのである。ここで子どもは、自分もつ「かば」と「ねずみ」のイメージを想起する。「かばは大きい。だからタンブリンの白いところをたたいてターンタン。」「それと比べてねずみは小さい。だからタンブリンを揺らして鳴らす。」など、それまでは単に楽器の鳴らし方として認識していたことと動物のイメージをここで初めて関連させて考える。同じ楽器でも動物に合う鳴らし方は違う→自分の動物にはどんな楽器の鳴らし方がいいのか？との疑問を子どもにもたせ、本時の学習課題へとつなげたい。また、「かばさんが何をしているところ？」などと問いかけることにより、よりその動物の様子が明確になる。「ゆっくり」「急いで」など子どもから出された言葉も取り上げ、その後の活動で着目させたい〔共通事項〕とのつながりもつくりたい。

② 友達の楽器の鳴らし方を聴き合うことで、動物のイメージと〔共通事項〕を関連付ける。

自分の動物に合う楽器の鳴らし方を考え楽譜に記述した子どもたちに、友達の楽器の鳴らし方を聴き合う場を設ける。例えばねずみで鈴を選んだ子どもの鳴らし方を聴き「どんな鳴らし方だったか」と全体に問う。「鈴を細かくふってシャラララ・・・と小さな音で鳴らしていた」等の言葉を出させる。「ねずみさんが走っていたから」など、そのように鳴らした理由も引き出す。これらの言葉を「細かく（＝リズム）」「シャララ（＝音色）」「小さな音（＝強弱）」と〔共通事項〕の要素ごとに分けて板書していく。それ以外の同じ様子で違う動物など、何人かから出された鳴らし方も〔共通事項〕の要素ごとに分けて板書する。子どもは友達の楽器の鳴らし方を聴き合うことで、動物のイメージと〔共通事項〕を関連付けることができる。ここでは「音色」「リズム」「強弱」の〔共通事項〕と関連させることをねらう。

(3) 本時の展開

	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■ 評価規準○留意点											
<p>導入</p> <p>1 課題をもつ (7)</p>	<p>T 1 これは何の楽器ですか。</p> <p>C 1 タンブリン。</p> <p>T 2 これでかばさんの音を出そうと思います。どんな風に鳴らすといいでしょう。</p> <p>C 2 片手でタンブリンの白いところをたたいて鳴らす。タンタンタン。</p> <p>C 3 私も同じで、ターンタン。</p> <p>T 3 なるほど。かばさんが何をしているところですか。</p> <p>C 4 かばさんが歩いているところ。大きいからゆっくり歩いているから、ターンタンにした。</p> <p>T 4 ゆっくり歩いているんだね。楽譜に書くと <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>タ</td><td>ー</td><td>ン</td><td>タ</td><td>ン</td><td>・</td></tr></table> ですね。最後にお休みのウンを入れるといいですね。みんなで手拍子をしてみましょう。</p> <p>C 5 ターンタン・。(全員で手拍子ををする)</p> <p>T 5 どうですか。</p> <p>C 6 本当だ。かばさんが歩いているみたい。</p> <p>T 6 今度はタンブリンでねずみさんの音を出そうと思います。どんな風に鳴らすといいでしょう。</p> <p>C 7 揺らして鳴らす。チョロチョロチョロ・・・。</p> <p>T 7 なるほど。ねずみさんが何をしているところですか。</p> <p>C 8 ねずみさんが急いでいるところ。小さくて急いでいるから、チョロチョロチョロにした。</p> <p>T 8 急いでいるいるんだね。楽譜に書くと <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>フ</td><td>フ</td><td>フ</td><td>フ</td><td>・</td></tr></table> と図で書いてもいいですね。みんなで手拍子をしてみましょう。</p> <p>C 9 チョロチョロチョロ・・・。(全員で手拍子ををする)</p> <p>T 9 同じ楽器で、かばさんにもねずみさんにもなれそうですね。なぜでしょう。</p> <p>C 10 タンブリンの鳴らし方を変えたから。</p> <p>T 10 みんなの動物にはどんな鳴らし方がいいでしょうか。</p> <p>C 11 ぼくはりすでトライアングルだと・・・。ねずみさんと同じチョロチョロした感じで鳴らせばいいかな。</p> <p>C 12 私はうさぎでウッドブロックだと・・・。どんな鳴らし方ができるかな。</p> <p>C 13 私の動物はどんな鳴らし方であればいいんだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(学習課題)</p> <p>自分の動物に合うのは、どんな鳴らし方だろう。</p> </div>	タ	ー	ン	タ	ン	・	フ	フ	フ	フ	・	<p>○ かばの絵を提示してイメージをもたせる。</p> <p>○ 子どもの意見を基に、楽譜への表記の仕方も確認する。手拍子も全員で試し、表記と実際のリズムのつながりを確認する。</p> <p>○ 楽譜の表記は文字でも図でもよいことを確認する。</p> <p>○ ワークシートの学習課題欄には「どんな鳴らし方」だけ書かせる。</p>
タ	ー	ン	タ	ン	・								
フ	フ	フ	フ	・									
<p>展開</p> <p>2 鳴らし方を考える。 (30)</p>	<p>T 11 他の楽器にもいろいろな鳴らし方がありましたね。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>トライアングル、鈴、カスタネット、ウッドブロック、クラベス、小太鼓、平太鼓、ボンガ、コンガ</p> </div> <p>T 12 例えばトライアングルは？</p> <p>C 14 細かく鳴らしたり、チーンって鳴らしたり。</p> <p>C 15 音を伸ばさない打ち方もあった。</p> <p>T 13 (トレモロ奏法、響かせて打つ奏法、握って打つ奏法を提示)</p>	<p>○ 前時で他の楽器の主な鳴らし方を学習しておく。</p> <p>○ 鳴らし方の絵を提示して前時を想起させる。</p> <p>○ 鳴らし方を変え</p>											

	<p>鳴らし方を変えると音は？</p> <p>C16 音が変わる！</p> <p>C17 リズムも変わる！</p> <p>T14 他の楽器も変わるでしょうか。</p> <p>C18 鈴も色々な音があったから変わる。</p> <p>C19 音もリズムも変わる！大きさも。</p> <p>T15 では、自分の動物に合う鳴らし方を考えてきましょう。</p> <p>C20 ぼくはりすで木に登っているから、トライアングルでチョコチョコだから細かく打ってみようかな。</p> <p>C21 ウッドブロックをはずんで打つと、うさぎがはねて遊んでいるみたいになっておもしろいな。</p> <p>C22 いたずらぎつねみたいにするには、小太鼓をどう鳴らすといいかな。細かく打ったり大きく鳴らしたり試してみよう。</p> <p>T16 自分が決めた鳴らし方をワークシートに書きましょう。</p> <p>C23 (ワークシートに1つ書く)</p> <p>T17 それでは、友達の鳴らし方を聴いてみましょう。</p> <p>C24 シャララララ・・・(ねずみ・鈴)</p> <p>T18 どんな鳴らし方でしたか。</p> <p>C25 細かくふってシャラララ・・・と鳴らしていた。</p> <p>C26 小さな音で鳴らしていた。</p> <p>T19 鈴を細かくふってシャラララ・・・と小さな音で鳴らしていたのですね。どうしてその鳴らし方にしたのですか。</p> <p>C27 ねずみさんが走っているから。鈴を細かくふった。</p> <p>T20 なるほど。ねずみの様子に合わせて細かくシャラララ・・・と小さな音にしたのですね。同じく走っている様子の鳴らし方をした友達の発表も聴いてみましょう。</p> <p>C28 ドドドドド・・・(かば・平太鼓)</p> <p>T21 どんな鳴らし方でしたか。</p> <p>C29 大きな音でドドドドと鳴らしていた。</p> <p>C30 細かく鳴らしていた。</p> <p>T22 大きな音でドドドドと鳴らしていたのですね。どうしてその鳴らし方にしたのですか。</p> <p>C31 かばは体が大きいから大きな音で鳴らすようにした。走っているから細かくした。</p> <p>T23 なるほど。かばの様子に合わせて大きくドドドド・・・と細かく鳴らしたのですね。ねずみさんとかばさんを比べるとどうでしたか。</p> <p>C32 どちらも細かいリズムで走っている感じがした。</p> <p>C33 かばさんの方が大きい音だった。</p> <p>T24 リズムや音の大きさ(=強弱)が違ったのですね。シャラララ・ドドドドは「音色」、細かくは「リズム」、小さい大きいは「強弱」の仲間ですね。動物の様子によって、「音色」「リズム」「強弱」を変えるとよさそうですね。</p> <p>T25 では、もう一度自分の動物に合う鳴らし方を考えましょう。</p> <p>C34 ぼくも急いでいるかばの感じにしたいから細かい小太鼓のリズムにしてみよう。</p> <p>C35 赤ちゃんザルは小さいから、カスタネットで小さい音に変えてみよう。</p>	<p>ると音色やリズム強弱が変わることに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>鳴らし方とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色 ・リズム ・強弱 </div> <p>○ 鳴らし方を考える場と楽譜に表記をする場と活動を分ける。</p> <p>○ 各楽器コーナーにも鳴らし方の絵を掲示しておき活動の助けとする。</p> <p>○ 鳴らし方を試しながら楽器を変更したい子どもがいた場合は認める。</p> <p>○ [共通事項]の要素ごとに分けて板書をし、「音色」「リズム」「強弱」に着目させる。</p> <p>○ 出された意見を要素に分けて板書する。</p> <p>○ 「音色」「リズム」「強弱」に着目させやすいものを発表させる。</p> <p>○ 要素ごとに「音色」「リズム」「強弱」の言葉でまとめる。</p>
--	--	--

	<p>C36 鈴を小さく細かく鳴らすとかわいいりする感じがするから、さっきと同じにしよう。</p> <p>T26 自分が決めた鳴らし方をワークシートに書きましょう。</p> <p>C37 (ワークシートに1つ書く)</p> <p>T27 他の動物と音でお話をしましょう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><u>やり方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つのコーナーの両側に1列に並ぶ。 ・何をしているかを話してからA→B→A→Bと2回ずつ対話をする。 ・お互い感想を言ったら次の人に交代。 ・1つのコーナーが終わったら別のコーナーに行く。 </div> <p>C38 きつねが急いでいるところです。</p> <p>C39 うさぎが寝ているところです。</p> <p>C40 コンコンコココ・(きつね・カスターネット) チーン・チーン・(うさぎ・トライアングル) 2回対話。</p> <p>C41 細かいリズムで急いでいる感じでした。</p> <p>C42 チーン・チーンときれいな音でした。 (いくつかのコーナーに行き音でお話をする)</p>	<p>○ 最初に書いた楽譜の下の部分に書くことで変容が分かるようにする。</p>
<p>終末 3振り返る。 (8)</p>	<p>T28 みんな鳴らし方が見付かりましたか。自分の動物に合うようにどのように鳴らしましたか。</p> <p>C43 かばは体が大きいから大きな音で鳴らすようにした。</p> <p>T29 なるほど。つまり動物に合うように・・・。</p> <p>C44 音色, リズム, 強弱を工夫した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(まとめ) 動物に合うように「音色」「リズム」「強弱」を工夫して鳴らすといい。</p> </div> <p>T30 振り返りをします。どうしてその鳴らし方にしたかを書きましょう。また、他の動物と音でお話をしてみて、いいなと思う友達の鳴らし方があったら書きましょう。</p> <p>C45 最初はタンブリンでトントントン・の鳴らし方にしていたけれど、シャラランと細かい鳴らし方にした方がリスのかわいい感じが出るから、細かくかわいい音にしました。くまさんと話をしたら大きい音で自分とは違っておもしろかったです。くまさんの音にぴったりでした。</p>	<p>■ 1つの楽器で様々な鳴らし方を考えたり, 同じ動物の楽器の鳴らし方の共通点を考えたりする活動を通して, 自分の動物のイメージに合う音の鳴らし方を工夫することができる。</p>

(4) 本時の評価

①評価方法

振り返りカードを基に評価する。

②評価規準

自分の動物のイメージに合う音の鳴らし方を工夫している。

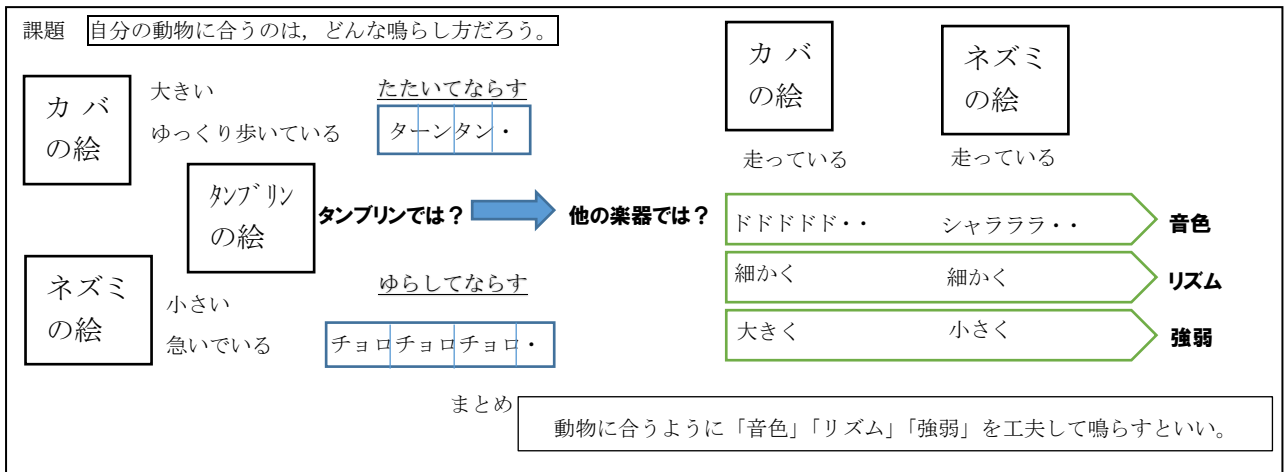
③B評価の具体的な姿

振り返りカードに「鳴らし方の理由」が書かれており, その中に「音色」「リズム」「強弱」のどれかに着目した言葉が入っている。

(例)

- ・シャラランと細かい鳴らし方にした方がリスのかわいい感じが出るから, 細かくかわいい音にしました。
→理由と共に「リズム」「音色」が書かれた記述。
- ・大きな音でダーンダーンと鳴らした。そうしたら, かばが歩いている感じになった。
→理由と共に「強弱」が書かれた記述。

(5) 本時の板書計画



6 参考文献

- ・『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料 [小学校音楽]』 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2013
- ・『打楽器スーパーガイド』 教育芸術社 2016